■北条貞時 武將。鎌倉幕府9代執権。得宗8代。(安達泰盛を殺害した)平頼綱討滅し、得宗専制体制を確立した。

ほうじょうさだとき

日蓮佐渡配流1271= 生。_北条時宗の嫡男。母は安達泰盛の娘滝音院覚山志道尼。

元寇文永の役1274= 3歳：

宋滅亡・・・1277= 6歳：元服。

異国降伏祈禱1280= 9歳：

元寇弘安の役1281=10歳：

日蓮没・・・1282=11歳：従五位下左馬権頭に任ず。

北条時宗没・1284=13歳：*父時宗の死により、北条氏惣領家の家督を継ぎ、得宗の地位につく。

霜月騒動・・・1285=14歳：相模守に任ず。_若年の貞時をめぐって、御内人勢力の代表で内管領の平頼綱と、外様御家人勢力の代表で貞時の外祖父にあたる安達泰盛の対立が激しかったが、頼綱の言を容れて、安達氏一族とその与党の大江泰広・佐々木宗清ら武蔵・上野などの外様御家人5百余のほか、信濃の伴野氏・尾張の足助氏などを討って、得宗専制政権を確立した。これを霜月騒動・弘安合戦といい、九州に波及して筑前岩門合戦となった。

・・・1287=16歳：従五位下。

久明親王将軍1289=18歳：正五位下，従四位下と位階が進んだ。_將軍維康親王を廃立して京都に送還し，かわって後深草天皇の皇子久明親王を将軍に迎えて，幕政改革に着手しようとした。

・・・1290=19歳：_北条時頼が執権職を辞た後の得宗北条時宗の執政期における施政を改沙汰せずと宣言したのは，その現れであったが，彼の乳母の夫で内管領であった平頼綱を首班とする御内人勢力が立ちほだかり，安達氏などの外様御家人勢力を敗退させたあと，幕政を壟断して御内人専制の政治を行っていた。

・・・1291=20歳：_鎌倉経師ヶ谷の頼綱邸に討手を差し向けてこれを倒し，幕政の実権を回復して独裁権を樹立した。これを平頼綱の乱という。乱後，貞時は評定衆・引付衆・各奉行人らを召し，収賄をせず公平を旨とする旨の誓状起請文を書かせて，幕政の浄化を図ったのを始めに，頼綱執政期の批政を正すことを直接の目的とし，ひいては幕政の立て直しを図って次々と手を打っていった。また，訴訟の迅速化を目的として，庭中当日の判決，本補地頭と領家との中分なども勅めたほか，惣領罪科跡の庶子分の返付，無足であっても御家人身分を安堵するなど，御家人制度の再建を図った。さらに，引付衆を廃止して，かわりに7人の執奏を置き，政務を直断することにした。引付自体は翌々年復活したが，貞時の重要政務直断制にはかわりがなかった。ここに貞時の独裁制が完成したといえよう。

平頼綱の乱・1293=22歳：

・・・1294=23歳：*貞時が家督を継いだ年以前に関する越訴を禁じ，弘安合戦と党人の赦免復帰を認めないこと以外には平頼綱執政期の施政をいっさい否定して，前代時宗の政治に復することを宣言した。

・・・1295=24歳：_吉見孫太郎を斬り，一族の良基僧正を配流した。貞時の政治の根幹は御家人制の再興であった。貨幣経済の浸透や分割相続の繰り返しなどによって貧窮化した御家人を救済して，御家人制を再興維持しようとする彼の施政の行きつくところは，

永仁徳政令・1297=26歳：_永仁の徳政令で，貧窮御家人の救済と訴訟の迅速化をねらったものであったが，かえって経済界の混乱と訴訟の増大，さらに御家人の窮乏を促進することになる。

・・・1298=27歳：

・・・1300=29歳：_施政が専断的かつ強圧的であったため，その側近官僚であった御内人勢力のさらなる伸張を招き，越訴を止め御内人5人が奉行になったりする。この時期，貞時は伊豆・駿河・武蔵・上野・若狭・美作・備中・肥後などの守護でもあった。

後二条天皇・1301=30歳：_出家して執権職を一族の北条師時に譲ったが，その後も自邸に寄合衆などを集めて幕政の実権を握り，

・・・1305=34歳：侍所別当北条宗方が連署の北条時村を殺したあと，宗方誅殺を命じ，

・・・1307=36歳：

將軍追放交替1308=37歳：_將軍久明親王を京都に返し，その子守邦王を將軍に立てた。この時期，貞時が3年あるいは4年にわたってひそかに諸国を巡察したとか，あるいは巡察使を派遣したとかいう伝説がある。

・・・1311=40歳：_没した。